

まるごと“ふらの”を華麗(カレー)に食べよう!
 ~食(カレー)を通して農業・商業・消費者を結ぶかけ橋に~

第222号 2015. 10. 18 配信
 発行元:食のトライアングル(農・商・消)研究会

がらんぽー通信



毎月22日は華麗(カレー)の日!
 毎月6日はオムカレーの日!

食のトライアングル(農・商・消)研究会は

地元の食材に付加価値をつけたカレーを通して、食への意識や関心を高め、市内はもとより道内外に“ふらの”の魅力を華麗(カレー)に発信することを目的に、「楽しく・ゆるやかに・継続して」を基本にワクワクさせる取り組みを展開します。

トピックス:富良野オムカレーウォーキング2015

富良野オムカレー推進協議会(会長 石川節子)は、10月18日(日)に「富良野オムカレーウォーキング」を開催した。市民ら150名が午前10時にフラノマルシェをスタート、中心市街地と北の峰にある富良野オムカレー提供店(7店舗)と菓子店(7店舗)をウォーキングで周りスタンプを集め、ゴール後にスタンプの数に応じてトッピングが増える特製オムカレーに舌鼓を打った。

同ウォーキングは、オムカレーを通じた市民還元イベントの一環として、①中心市街地と北の峰エリアの魅力を再発見②健康増進③富良野スイーツの魅力発信④オムカレーを地域に根差した食文化醸成を目的に2012年から4回目の開催。

晴天のなか、参加者は約2時間30分かけて中心市街地と北の峰エリアのウォーキングで紅葉がピークを迎える秋の富良野を楽しんだ。

ゴール後、参加者はフラノマルシェ内にある中庭で、ソーセージやコロッケ、南瓜のサラダなど地元食材たっぷりのオムカレーを食べたほか、米や野菜、卵、カレールウ、スパイス、にんじんジュース、お菓子などを付けた「おうちでオムカレーセット」をもらった。



お土産の多さも富良野オムカレーウォーキングの魅力。



富良野産の食材が詰まった特製オムカレー

市内から親子で参加した太田文さんは「今年、娘と初めて参加したがウォーキング途中の北の峰エリアで食べた正直村のアイスクリームが美味しかった。ゴール後にオムカレーを食べ、お土産もたくさんもらい嬉しい。」と満足した様子で話していた。

同協議会は、富良野オムカレーが観光地グルメだけでなく、市民が身近に感じることができるよう、これからもウォーキングをはじめ、市民還元イベントを開催したいと話している。



ゴール後、フラノマルシェ中庭で特製オムカレーを食べる参加者

お知らせ:食による観光まちづくり全国フォーラム2015in深浦

10月24日(土)に、マグロを使った新・ご当地グルメ「深浦マグロステーキ丼」が大ヒット中の青森県深浦町で、食による観光まちづくり推進協議会(会長:西森和弘)主催のフォーラムを開催する。今年、誕生10年目の節目を迎えた美瑛カレーうどんの軌跡について西森会長が基調講演するほか、青森県の平内町、中泊町で誕生したご当地グルメの事例発表、「地域バカが地域を変える～食による地域活性化を10年続けるために～」として、(株)クルートライフスタイルのヒロ中田氏をコーディネーターに深浦マグロ料理推進協議会の鈴木事務局長と富良野オムカレー推進協議会の松野事務局長によるパネルディスカッションを行う。本フォーラムに関して詳しくは深浦マグロ料理推進協議会事務局(0173-74-4412)まで。

食による観光まちづくり
2015 in 深浦

日時 平成27年10月24日(土) 14:30~17:30 観覧無料

- 基調講演 西森和弘(青森県深浦町)「美瑛カレーうどん」10年の軌跡
- 事例発表 鈴木マサヒロ(深浦町)「深浦マグロステーキ丼」の軌跡、(株)クルートライフスタイルのヒロ中田氏「地域バカが地域を変える」
- パネルディスカッション 地域バカが地域を変える～食による地域活性化を10年続けるために～

会場 深浦町役場1階「町民文化ホール」(受付時間) 平日 8:15~17:00

TEL 0173-74-4412